



いま、地球は どうなっているのだろう

●地球温暖化(ちきゅうおんだんか)

資源(しげん)やエネルギーの大量消費(たいりょうしょうひ)によって、大気中に二酸化炭素(にさんかたんそ)など温室効果(こうか)ガスが増え、地球の熱が宇宙(うちゅう)に逃(に)げにくくなり、気温が上昇(じょうしょう)する温暖化が心配されています。このままでは、21世紀末までに平均(へいきん)気温が今より約3℃上がり、生物や農作物への影響(えいきょう)や、海水の膨張(ぼうちょう)、氷がとけることによる海面の上昇で陸地の水没(すいぼつ)などの被害(ひがい)が予測(よそく)されています。



●海洋汚染(かいようおせん)

海難事故(かいなんじこ)による油の流出、プラスチックや発泡(はっほう)スチロールなどのゴミ、そして、有害物質(ゆうがいぶっしつ)による海洋汚染が進んでいます。北海で死んだアザラシから、PCB(ピーシービー)や水銀、

カドミウムなど150種類もの有害物質が検出(けんしゅつ)されたこともあります。雨は大気(たいき)の汚(よご)れを、川は陸(りく)の汚(よご)れを海にもたらし、海にすむ生物の命と、漁業を通じて人間の食生活をもおびやかしています。

●熱帯林の減少(げんしょう)

二酸化炭素(にさんかたんそ)を吸収(きゅうしゅう)して、酸素(さんそ)を作る重要な働きをし、気候を安定させる役目を果たしている熱帯林が、開発・焼き畑・樹木(じゅもく)の伐採(ばっさい)などで、どんどん減(へ)っています。世界の野生生物種の約半数が生息している熱帯林の減少は、そのまま野生生物の減少にもつながり、1981年から90年では、毎年約1540万ヘクタール、日本の約4割(わり)の広さの熱帯林がなくなりました。

●世界各地の公害

急激(きゅうげき)な工業化に対する公害防止対策(こうがいぼうしたいさく)の遅(おく)れ、都市への人口集中などが深刻(しんこく)な大気汚染(おせん)、水質汚濁(すいしつおたく)などを引きおこし、開発途上国(とじょうこく)を中心に多くの国で、人々の生活をおびやかしています。

●オゾン層(そう)の破壊(はかい)

太陽からの有害な紫外線(しがいせん)を吸収(きゅうしゅう)して生物を守ってくれるオゾン層が、地球をおもっています。これを人間の作ったフロン、ハロンなどの化学物質(ぶっしつ)が壊(こわ)しており、このためオゾン層が薄(うす)くなって、地上に届(とど)く紫外線が増(ふ)えると、皮膚ガンや白内障(はくないしょう)の増加(ぞうか)、また農作物への悪影響など、さまざまな被害(ひがい)が予想されています。



●酸性雨(さんせいう)

工場からのばい煙(えん)や車の排気(はいき)ガスにふくまれている、イオウ酸化物(さんかぶつ)やチン酸化物が原因(げんいん)で、強い酸性の雨が降(ふ)っています。これによって森林が枯(か)れ、湖や沼(ぬま)の生物が死滅(しめつ)、建物や遺跡(いせき)の腐食(ふしょく)などの被害(ひがい)が出ています。これらの汚染物質(おせんぶっしつ)は、気流に乗って遠くまで運ばれるため、被害は広範囲におよびます。



●砂漠化(さばくか)

気候の変化や多すぎる家畜(かちく)の放牧(ぼうぼく)、樹木(じゅもく)の伐採(ばっさい)などが原因(げんいん)で、土地が砂漠のようにやせた状態(じょうたい)になる砂漠化が、地球上の全陸地の約4分の1(約36億ヘクタール)の地域(ちいき)に進んでいます。

●野生生物種の減少(げんしょう)

人間による開発や環境汚染(かんきょうおせん)からの生息環境の破壊(はかい)、乱獲(らんかく)などによって、このままでは毎年約4万種の生物が絶滅(ぜつめつ)の危機(きき)に瀕(ひん)しています。

●有害廃棄物(ゆうがいはいきぶつ)の越境移動(えっきょういどう)

工場などから出る有害な廃棄物は、責任を持ってきちんと処理(しり)するのが当然なのですが、量が多すぎる、費用が高いなどの理由で、国内で処理しきれず、国外へ移動することがあります。ところが、移動先での処理不十分や不法投棄(ふほうとうき)によって、深刻(しんこく)な環境汚染(かんきょうおせん)を引きおこすことがたびたびあります。